

放送教育実践指導報告 I

久 實 (物理学教室・応用物理学講座)

この報告は、平成三年度・和歌山県幼児放送教育研究会開催（主催・和歌山県幼児放送教育研究会、後援・NHK和歌山放送局）にあたり、和歌山県有田郡広川町立第一保育所において平成三年二月より、同年十一月までの間、放送教材を保育活動の一環として活かす保育のあり方について、同研究会の依頼により実践指導した経緯と、その成果を纏めたものである。

1. はじめに

昨日まで、母親の胸の中で、まどろんでいた子供が、母や、家族や、家庭を離れて、ここ保育園という全く新しい生活環境の中で殆ど一日、それぞれの運命と、個性の芽をもって生き始める。

それはまさに、この小さい命を押しつぶさんばかりの大きな変化であり、その子の個性の発展や、能力の発達に著しい影響を与える一大転換期を意味している。

一般に、母親は産まれたばかりのわが子に対して、一日に約24万回もの情報を与えていると言われてはいるが、この情報の与え方は「一定の保育目標と、教育的配慮」に基づいているかと言うと、必ずしもそうとは言い難く、比較的無秩序であって、非系統的、非組織的である。

このような環境の中で育ってきた幼児たちも、今日から状況が一変し組織的、秩序的、系統的に情報が与えられ、ある種の枠組みの中で、生きていくことになる。これはそれぞれの子供にとって、与えられる情報が、命の原動力、考えの原動力、行動の原動力となることであり、父母や、家族や、地域という限られた環境を遙かに越え、時間的にも、空間的にも異なる環境の中で、全く異なる各種の情報に接する機会を、時系列的、組織的に与えられることを意味する。

そして、幼児は、自分を取りまく環境が、保育者や、父母や、友達や、家庭や、保育園や、地域社会のみではなく、まだまだ大きな環境があることを意識し、自然や、世界や、国々や、人々や、時間や、空間に目覚め始めるのである。

さて、幼児のこうした意識の広がりを支えることができるのは、幼児を取りまく父母や保育者や、友達などであることは勿論であるが、より広く、より効果的に働きかけることができるものにメディアがある。中でも、幼児が最も身近に接することができるのはテレビを介して他にはない。

この意味において、保育の場における放送教育、殊にテレビの持つ重要性和、その必要性の根拠を十分に理解することができる。

三歳児、四歳児の小さな命への働きかけがその子の長い生涯を支配する大きな基盤となり、歩むべき人生への方向性を支える羅針盤の役目となることを考えるとき、放送による幼児への働きかけが如何に重要な意味を持っているかが自明のこととして受けとられるのである。

このことは同時に、豊かな人間性開発と、感受性の育成、溢れるばかりの創造性と、素晴らしい能力の開発と、技能豊かな素質の涵養は、まさに、この時期を逃してはありえないことを物語った

ていて、放送の果たす役割の如何に大きいか示している。

いま知識偏重教育、詰め込み教育などにたいする反省が叫ばれ、人間性豊かで、広く幅のある感受性を持ち、創意工夫をめぐらせ自己啓発的に行動することができる幼児を育む教育の重要性が必要とされているとき、放送教育が果たす役割の如何に大なるかをここに知ることができる。

2. 広川町立第一保育所の経緯と現状

昭和48年、当保育所が設立されるまでは、三歳児、四歳児は各家庭の父母の下におかれていて幼児教育としての組織的な環境にはなく、五歳児のみが市立の幼稚園で幼児教育を受けていた。

当時我が国においても、既に幼児教育の普及化がすすみ、人格形成の上で、三歳児、四歳児における教育が重要な意味を持ち、教育の根幹をなすものであるという理解の深化がすすんでいた。高度文明社会に成ればなるほど就学の早期化、就学年限の長期化が必然的傾向であるという実態による要請は、ここ広川町においても同様であり、

昭和48年（1973年）4月に、

三歳児、四歳児の教育を対象とした第一保育所が、

定員120名（クラス数：3、保育室：3、ほふく室：1）を以て設立された。

開設当初、63名の児童が入園し、その後、徐々に園児数が増加の傾向をたどり、

昭和52年には130名（男子：78名、女子：52名）に達したため3教室、遊戯室、プール砂場、自転車置き場などを増築し、定員を150名とした。

その後、昭和54年に、地方財政建設促進準備団体の指定を受けたことが、給与所得者の幼児の保育料の高騰をきたす結果となり、その影響もあり園児数が、次第に減少し始め、昭和63年には73名まで減少するに至った。

その後、約11年間を経過して財政の健全化が達成され、

平成3年度においては、児童数、98名まで回復した。

現在、三歳児31名（男子：14名、女子：17名）

四歳児67名（男子：38名、女子：29名） 合計 98名の幼児と、

職員数7名（所長、主任保育母、副主任保育母、保育母3、技能職員1）をもって構成されている。

また、幼児の保育活動を園内の保育のみに限定することなく、地域の社会的行事などと関係を保ちながら、広く開かれた保育活動を展開し、父母や兄弟を交えた活動の中から保育教育の重要性について深い理解と、関心と建設的、積極的な保育教育への父母の参加を促進するための活動を続けている。未だ日は浅いが、幼児による敬老会、町主催の「ふるさと祭り」における日本太鼓の円舞、クリスマス会などの行事を、従来からの運動会と共に、保育活動の一環としてとり入れ、幼児、父母、家族と共に地域文化にねざした地域ぐるみの保育活動を目指し、実践している。

3. 放送教育研究を契機に改正を行った保育方針

1. 保育目標

心身ともに健やかな子どもを育てる。

元気に活動する子どもを育てる。

じっくり落ち着いて考えられる子どもを育てる。

- 友達と仲良く遊べる子を育てる。
- 根気よく最後までやりとげる子どもを育てる。
- 豊かな表現ができる子どもを育てる。
- 思いやりのある子どもを育てる。
- きまりや約束を守れる子どもを育てる。

2. 保育目標実現のための基本姿勢

- ひとりひとりを大切に
個々の子どもたちは、それまでの生活環境の違いにもとずいて、いろいろな個性や生活習慣を身につけて入園してくる。
保育者は、これらの子どもを温かく迎え個々の個性を大切に育みながら、集団生活の中で安定した活動ができ、自主と自律の生活態度が芽生えるよう配慮する。
幼児の興味や、関心を深く探り、個々の子どもが充分満足できる保育環境を整備し個々の子どもが持っている能力と、技能を最大限に発揮させる。
また、基本的な生活習慣や、集団生活の場では約束ごとや、きまりがあることを、経験や、活動を通して身につけさせる。
- 個々の子どもの自発的、意欲的活動を大切に
ひとりひとりの自発的活動を大切に見守り、これを育て発展させるように心掛け、ひとりひとりの発展的遊びを援助し、多面的な経験を豊富する場の設定に心掛ける。
ひとりひとりが充実感をもって満足し、楽しさを満喫でき、新しい挑戦への思が持てる環境造りに心掛ける。
- 集団の中での自分を見つめさせる
自分の他に自分と同じような友達のいることをわからせる。
自分がしたいと思っていることを、友達も思っているかも知れないことに気付かせてはいけないことがあることに気付かせる。
- 表現することの楽しさを見出させる
豊かな表現を導くため、楽しい環境造りを通して優しく話し掛ける。
色々な情報を適切に与え、お話を導き出す。
夢の広がり大切に作る。
- 園児の理解、指導について職員の研鑽、研修の場を確保する。
望ましい保育が常に実践されるためには幼児の実態を見極め、個々の幼児の課題を日々確認しながら指導にあたらねばならない。そのための職員のたゆまい自己研鑽が常に必要であることを忘れない。
- 円滑な保育が行われるための職員の相互の協力体制を充実する
幼児の個々の問題を、職員全員の問題としてとらえ、全員の英知を結集して課題の望ましい処理にあたる。
そのための和やかな雰囲気造りと、互いの相互理解に努力し励まし合う。

研究主題の設定と研究活動指導の概要

主題設定の理由

一般的に、幼児はその小さい身体の中に無限の可能性と、エネルギーを秘めていると思われる。そして、その可能性とエネルギーは、幼児の心が安定したとき、環境との関わり合いの中から主体的、創造的に生まれてくると考えられる。

勿論、心の安定、そのものも環境との相関関係の中から生まれてくるものであることには相違ないのである。

豊かな感性も、豊かな表現力も、創造性を巡らす心の働きも、環境に働きかける意欲も、環境に適応する能力も、意欲的生活態度も、全て、あの小さな個体の中に秘められているのである。

これをひきだし、育て、育み、完全発達に導く人的環境としての保育者の使命は、計り知れなく大きいものがある。

また、この人的環境によってかもし出される物的環境は、保育活動そのものをその根底から支配するのである。

こうした基本的命題のもと、下記にあげる本保育所をとりまく状況を省みて、「のびのびと、自ら遊びを發展させていくこどもをめざして」という主題に、「放送教育にねざした実践を通して」を副題として設定することに職員の一致をみた。

入園前の幼児をとりまく状況は、徐々ではあるが過疎化にともなう幼児数の減少、高速道路の延長にともなう交通量の激増、各家庭でのテレビ視聴率の激増などにより幼児の戸外での遊びの空間的、時間的減少は著しく、殆どが家庭内での保育環境に限定される場合が多い。

そこで、入園後の集団生活への戸惑いと、生活習慣の違いによる保育園生活への適応の個人別時間格差という物理的要因による問題のみならず、情緒面などの心理的諸問題の解決すべき課題が多い。

一般に、保育所入園当初見られる傾向としては、
自分の遊びを遊べない、
自分の遊びを發展させ、他との関わり合いの中で遊べない、
遊びを楽しめない、
遊びを創造できない、など挙げることができる。

そこで、自然環境が、未だ残されている地域的特性を充分活用することを保育内容に充分とり入れながらダイナミックな身体的活動をともなう遊びを展開し、同時に制作活動、創作活動を通して感性の涵養と、遊びへの積極的参加を促進するための環境造りに特に配慮した。

殊に、遊びの内容が身近かなもので、その遊びが簡単に再現できものを取り上げた。

また、異年齢の幼児とも交流が可能な場の設定を多く持ち、子供同士の交わりの場ができるだけ広く広がり、豊かな体験が可能な状況を造り上げることに配慮した。

遊びが、ますます發展し具体的制作活動、創作活動を通して幼児の夢を広げ、広い視野の中で、自己啓発的に遊びを發展させることが可能な状況造りのためと、遊びを通じて感性を涵養することが可能な状況造りのために保育園という限られた空間を離れてイメージを膨らませることが可能なように放送教材を充分とり入れた。

放送教材を用いた保育の流れ

既に実施している放送教育視聴に加え、園外保育の際や、また時間外のビデオ撮りによる手作りビデオをも保育活動の中に積極的にとり入れ日常の放送教育活動を展開するように努めた。

次の表は放送教材を用いた保育の流れを示した。

実践指導した保育指導案と保育活動

1991年11月21日

保育指導案

保育者 桜井津紀代

幼児の年齢	3 歳	クラス名	うさぎ組	幼児の構成	男児 7名	女児 8名	合計 15名
主 題	のびのびと、自ら遊びを発展させていく子どもをめざして						
主題にもとづく保育活動	ゆうえんちごっこ						
主題にもとづく活動のねらい	好きな遊びを見つけ、異年齢児や他のクラスの友達と関わりながら楽しく遊ぶ						
本時の活動	乗り物ランドであそぼう						
本時のねらい	異年齢の子どもたちや、他のクラスの友達と乗り物ごっこを楽しむ中で遊びを大きく広げ、友達と積極的にかかわることができるようにする。						
本時の指導にあたって：	<p>動くものへの興味が著しく、輪にした縄ひも一本でも電車ごっこへと発展し、ダンボール箱に入っては、バスごっこへと遊びを膨らませる。</p> <p>本時は、子どもたち一人ひとりの思いを一層みさせるような環境造りに心がけ、思い思いの乗り物を使い、遊びを楽しむ中で、友達と関わりあって遊ぶ楽しさを体験させる。</p>						
放送教材との関わり：	<p>既に録画している放送教材、手作りビデオ「動物園」を、子どもとともに視聴することにより、保育活動における動機付け、遊びの糸口、発着想の起点などとなるように配慮しながら、放送内容そのものが、保育活動全体の中で、生き生きと躍動するためには、テレビ視聴をどのように位置付ければよいかを常に心に留めた。</p> <p>また、テレビの世界を通じて子どもの世界が大きく広がり、遊びの中に、テレビの世界が位置付けられ、子どもの世界と、テレビの世界がフィードバックするような関係を造りあげること心がけた。</p>						

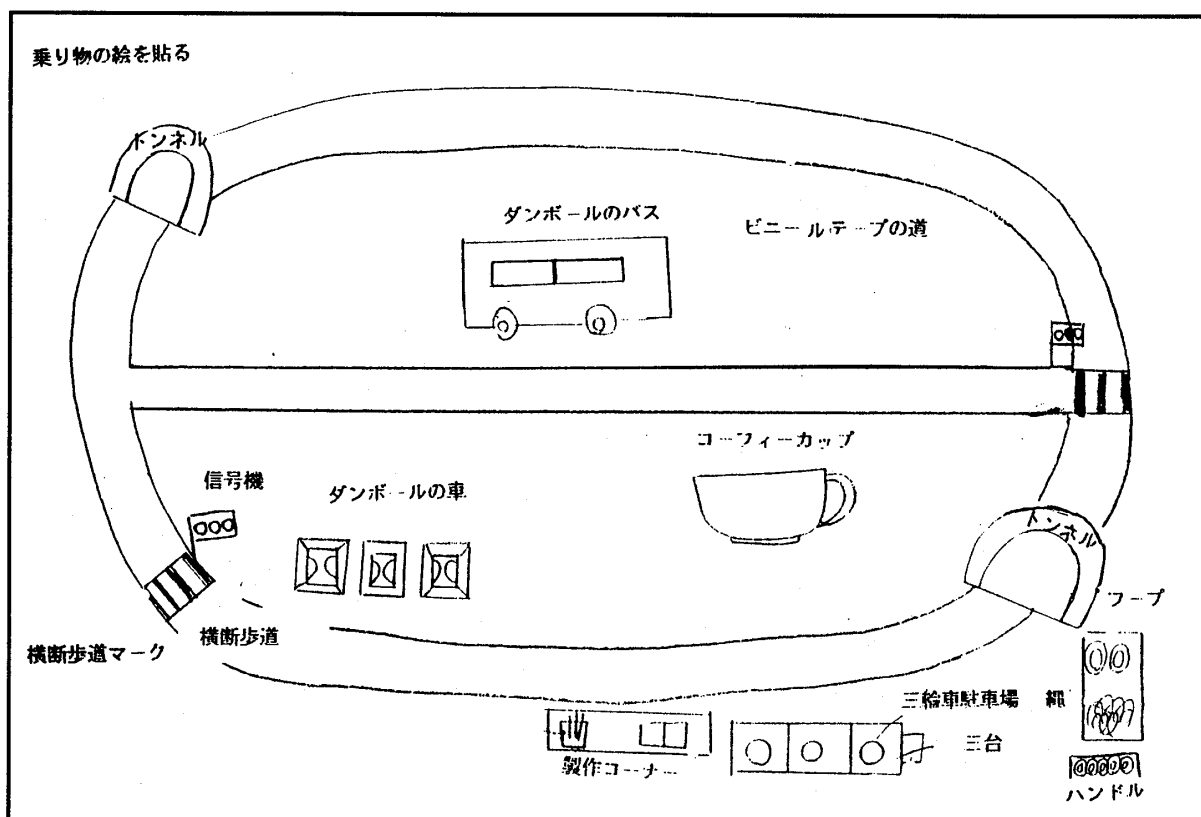
保育活動の流れ

最近接先行保育活動の記録		
平成 年月日	保育活動の内容と、特に気付いた事柄	備 考
3. 11. 1	<p>手作りビデオ、「動物園」を視聴したところ、子どもたちの中には既に、みさき公園へ家族の人達と行った子どもが多く、「みさき公園へいったことある……」</p> <p>「汽車に乗ったことあるで……」</p> <p>「ジェットコースターもくるくるまわってたで……」</p> <p>などと、次から次へと話の輪が広がり、素材置き場から、ダンボール箱や、三輪車などを持ち出し、乗り物ごっこへと遊びが発展し始めた。</p> <p>また、粘土、空箱、ブロックなども手当たり次第に持ち出し、乗り物への夢を膨らませ始めた。</p>	<p>手作りビデオ</p> <p>乗り物への興味</p> <p>先行経験</p> <p>夢の再現</p> <p>遊ぶため、夢を膨らませるための活動と、製作</p>
3. 11. 21	<p>** 本時の保育活動 **</p>	天候への配慮
<p>今後の保育活動への取り組み：</p> <p>仲間同士のぶつかり合いから、喧嘩も見られたが、色々な遊びを体験する中で、ルールを守って友達と遊ぶと、より一層、遊びが楽しくなることを気づかせ遊びの輪を広げる。</p>		

* 本時の展開 *

時間配分	展開にあたっての環境構成の留意点	予想される幼児の活動	保育者の援助と配慮
開始0分	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビ画面が光って見えにくいように、子どもの目で点検して、適当な位置に設置しておく。 ○視聴に最適な位置と音量に気をつける。 ○テレビのスイッチを入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビの前に座る。 ○NHK放送教材 なかよくあそぼ「じゅんばんだよ かわってあげる」を視聴する。 ○テーマソングを歌う。 ○ゆうにいちゃんあいさつする。 ○思ったこと、感じたことを口々に話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビを視聴する距離と、場所に気をつけ、見やすい位置に座るように配慮する。 ○保育者は子どもたちと一緒に共感できる場所に座り、気づいたことや、思ったことを伝える喜びが味わえるよう、一人ひとり言葉や、表情、行動を温かく受けとめる。 ○落ち着いて視聴できない子どもには、できるだけ保育者の側に座るようにしむけ、共感しながらテレビを視聴する楽しさを分らせる。 ○視聴後の余韻を大切にしながら遊びに入れるように配慮する。 ○遊びに入れない子どもには保育者が遊びに誘ったり、年長児に誘ってもらったりするように促したりする。
15分	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビのスイッチを切る。 ○乗り物は、混雑しない配慮にする。 ○カセットテープレコーダーから曲を流す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○気に入った乗り物でイメージを膨らまして遊ぶ。 ○乗り物券を作る。 ○乗り物で遊ぶ。 ○縄、ロープで遊ぶ。 (電車や、車になる。) ○三輪車、車、コーヒークップに乗って遊ぶ。 ○タクシー、バスの運転手になる。 ○お客になる。 ○信号機を操作して遊ぶ。 ○色々な広場へ出かけて遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○乗り物を独占してしまう子どもを見守りながら、必要な時には声をかけたり、中に入ったりしながら、交代することによって、または、順番を守ることによってみんなが楽しく遊べることの大切さを知らせるよう心がける。 ○友達と同じ場所においても他の子と関わり合いをもたずに遊んでいる子を見守りながら時には、保育者も遊びにはいたりしながら他の子と遊べる機会を見出せるように援助する。 ○遊びを見守りながら必要な時には、助言したり、援助をしたりして遊びがスムーズにすすめられるよう留意する。 ○各広場での遊びが十分楽しめているか、保育者間で事前に検討したことが順調に進んでいるか確認する。
終了45分	<ul style="list-style-type: none"> ○園内放送を通じて遊びの時間の終了を園内に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○お片付けを始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○明日もみんなで楽しく遊べるように、期待と希望とに満ち溢れるように、今日の楽しかったことなど話しながら、みんなで力を合わせて早く終われるように配慮する。

本時の遊びの環境（配置図）



環境構成	遊びをひろげる環境構成にたいする留意点
<p>○乗り物券（交替券）</p> <p>○紙</p> <p>○カラーペン</p> <p>乗り物ランド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーヒーカップ ・バス ・三輪車 ・タクシー ・フープ ・縄 ・信号機 ・トンネル ・道路 ・横断歩道 ・カセットテープレコーダー ・ガムテープ ・油性マジックインキ ・セロテープ ・ホッチキス 	<p>遊びをひろげる環境構成にたいする留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○乗り物ランドの雰囲気を高めるためクラス内の壁に、乗り物の絵をはる。 ○乗り物の配置場所を工夫して、部屋を広々使えるようにする。 ○乗り物ランドとしてのイメージが、膨らむように手作り遊具を種類別に十分用意しておく。 ○乗り物遊びが十分楽しめるように、道路や、横断歩道を作っておく。 ○カセットテープレコーダーには、子どもたちが日頃から親しんでいる曲をセットしておく。

1991年11月21日

保育指導案

保育者 梅本 晴美

幼児の年齢	3 歳	クラス名	りす 組	幼児の構成	男児 8名	女児 8名	合計 16名
主 題	のびのびと、自ら遊びを發展させていく子どもをめざして						
主題にもとづく保育活動	ゆうえんちごっこ						
主題にもとづく活動のねらい	ゆうえんちごっこを楽しみの中で、異年齢児や他のクラスの友達と関わりながら楽しく遊ぶ						
本時の活動	ふれあい広場で、あそぼう						
本時のねらい	動物にかかわって楽しい遊びをひろげ、他のクラスの友達や、異年齢の友達と、ゆうえんちごっこの中で、より大きく遊べるようになる。						
本時の指導にあたって：							
園庭の築山に大喜びで登ったり、トンネルの中に入ったり、ままごとをしたり、ロープにつかまり登山ごっこをしたり、遊びがだんだん大きくなってきた。近くの八幡神社へ遠足で出かけたこと、そこでの探検ごっこや、どんぐり拾いなどしたことが大きなきっかけになっていると思われるが、その後、手作りビデオ「動物園」を見たとき、「ぼくらのお山といっしょやな」、「おさるさんの赤ちゃん可愛いな」などと言いながら興味を持って見ることができた。家族と行った動物園での話しをする子も増え、自然の中での遊びに興味を示してきた。本時はこの点をとりあげ、好きな動物になって、クラスの内外で友達と協力しながら遊びをいっぱいに広げることができるようにする。							
放送教材との関わり：							
既に録画しているNHK放送教材「なかよくあそぼ じゅんばんだよ かかわってあげる」を子どもとともに視聴することにより保育活動における動機付け、遊びの糸口、発着想の起点などとなるように配慮しながら、放送内容と子どもの生き生きとした遊びが躍動するように保育の中にテレビ視聴を位置付けたい。 子どもと共に遊びの世界に入るよう心掛けた。							

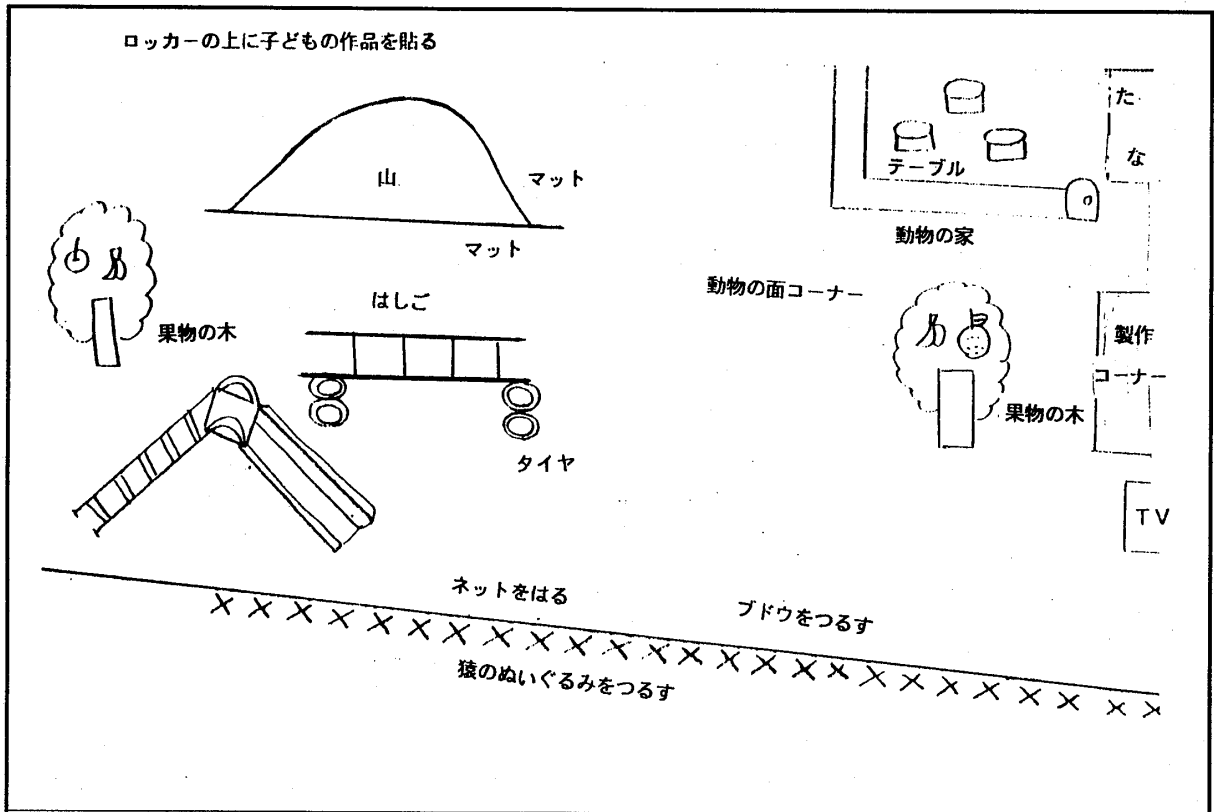
保育活動の流れ

最近接先行保育活動の記録		
平成年月日	保育活動の内容と、特に気付いた事柄	備 考
3. 10. 22	探検ごっこをするために近くの神社に出かけた。 薄暗い裏山に入ると、ドキドキしながら一体何が出てくるか分からないという様な顔をしながら保育者の周りから離れようとする子どもが多かったが、しばらくすると、木の穴をのぞいたりしながら、「リスが住んでるのかな……」 「虫が住んでるかわからんで……」 などと、口々に言い合ってはだんだん遊びが大きくなった。 落ち葉の凹みや、穴の開いた所など見つけると、「これ、きっと、おおかみの歩いたとこやで……」 などと、想像を巡らしていたが、その内に落ち葉を拾ったり、木の実を拾ったりしながら、互いに、見せ合ったり、比べ合ったりした。 また、女の子は、木の実を服に付けたりしていたが、男の子は、木の葉を帽子に付けて、ピーターパン遊びを始めた。 園に帰ったからは、拾ってきた木の実や、落ち葉を用いて、ままごと遊びが今まで以上に大きく發展した。	園外保育 自然の怖さ 自然の中でのほつらつとした動き 不思議の発見 収集の意欲 男児、女児の着想の差 イメージした動物の制作
3. 11. 21	** 本時の保育活動 **	天候への配慮
今後の保育活動への取り組み：		
異年齢の友達、他のクラスの友達と遊ぶ中で、友達と関わって遊ぶ楽しさや、互いに協力し合っものを作る楽しさを、知り、友達の輪の中で遊びを發展し、ますます広く、大きく遊べるように体験を通じて意識させる。		

* 本 時 の 展 開 *

時間配分	展開にあたっての環境構成の留意点	予想される幼児の活動	保育者の援助と配慮
開始0分	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビ画面が光って見えにくいように、子どもの目で点検して、適当な位置に設置しておく。 ○視聴に最適な位置にビニールテープを貼っておく。 ○テレビのスイッチを入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビの前に座る。 ○NHK放送教材 なかよくあそぼ「じゅんばんだよ かわってあげる」を視聴する。 ○テーマソングを歌う。 ○ゆうにいちゃんとあいさつする。 ○思ったこと、感じたことを口々に話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビを視聴する距離と、場所に気をつけ、見やすい位置に座るように配慮する。 ○保育者は子どもたちと一緒に共感できる場所に座り、気づいたことや、思ったことを伝える喜びが味わえるよう、一人ひとり言葉や、表情、行動を温かく受けとめる。 ○落ち着いて視聴できない子どもには、できるだけ保育者の側に座るようにしむけ、共感しながらテレビを視聴する楽しさを分からせる。 ○試聴後の余韻を大切にしながら遊びに入れるように配慮する。 ○遊びに入れない子どもには保育者が遊びに誘ったり、年長児に誘ってもらったりするように促したりする。 ○道具や玩具を独占してしまう子どもを見守りながら、必要な時は声をかけたり、中に入ったりしながら、交代することによって、または、順番を守ることによってみんなが楽しく遊べることの大切さを知らせるよう心がける。 ○友人と同じ場所においても他の子と関わり合いをもてずに遊んでいる子を見守りながら時には、保育者も遊びにはいったりしながら他の子と遊べる機会を見出せるように援助する。 ○子どもたちの考えを大切に受けとめるとともに、その考えが上手く製作に生かせるようにヒントを与えたりする。 ○それぞれの作品をほめたり、認めたり、しながら作る喜びを感じ、満足し、充実感に浸れるように配慮する。 ○遊びを見守りながら必要な時には、助言をしたり、援助をしたりして遊びがスムーズにすすめられるよう留意する。 ○各広場での遊びが十分楽しめているか、保育者間で事前に検討したことが順調に進んでいるか確認する。
15分	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビのスイッチを切る。 ○手作りビデオ「動物園」を流す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゆうえんちめぐりをしてふれあい広場で遊ぶ。 ○スベリ台をすべったり、ジャングルジムに登ったりはしごをくぐったりして、遊ぶ。 ○動物の家で、木の葉、木の実でお料理ごっこ遊びを楽しむ。 ○製作コーナーで動物の食べ物をつくる。 ○製作したものを動物に与えたり、果実の木につるして遊ぶ。 ○お化けやしきで遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・お化けを見て驚いたり、お化けになって、喜ぶ。 ○動物ランドで遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・動物に触れたり、上に乗ったりして遊ぶ。 ○いこいの広場で遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・色々なお店めぐりをして買い物をする。 ○乗り物ランドで遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・三輪車、キャタピラ車に乗って遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞紙に赤、オレンジ、黄、きみどりなどの色付けをした丸、三角、細長などの形のものを、分類して使い易いようにして多数用意する。 ○作ったものを木につるすのに、子どもたちが集中しないように、混雑しないように木を二本用意する。
終了45分	<ul style="list-style-type: none"> ○園内放送を通じて遊びの時間の終了を園内に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○お片付けを始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○明日もみんな楽しく遊べるように、期待と希望とに満ち溢れるように、今日の楽しかったことなど話しながら、みんなで力を合わせて早く終われるように配慮する。

* 本時の遊びの環境 (配置図) *



環境構成	遊びをひろげる環境構成にたいする留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○ ネット ○ 山ぶどう, ツタの葉 ○ 猿のぬいぐるみ 動物山 ○ マット ○ じゅうたん 動物の家 ○ ダンボール ○ 木のテーブル ○ 食器棚 <ul style="list-style-type: none"> ・ 空の容器 ・ はしたて ・ 木の葉 ・ 木の実 製作コーナー <ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞紙に色をつけたもの ・ 果物の形をしたもの ・ 油性マジックインキ ・ セロテープ 室内用スベリ台 はしご 動物園のビデオ 動物の面 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動物部屋の雰囲気ができるように, つたや, 山ぶどうの葉で飾ったネットを張りぬいぐるみをつるしておく。 ○ 子どもたちが自由に登ったり, 滑ったりできるように, マットやじゅうたんで山を作っておく。 ○ 家の中で, ごっこ遊びが楽しめるよう, 木のテーブルや, 食器棚を置き, 木の葉や, 木の実なども種類別にして遊びが色々と発展するように配慮しておく。 ○ 製作コーナーに置く材料は, できるだけ種類別にして子どもの遊びが多様性をもって発展するよう配慮する。 ○ 果物作りのイメージが膨らむように, 新聞紙に色々をつけておいたり, 丸や, 細長, 三角などの色々な形のものを用意しておく。 ○ 油性マジックは乾燥しやすいことを話し, 使用後は必ずキャップをしめる約束をしておく。 ○ 製作したものを自由につるせるよう, 果物の木を用意して子どもの手の届く位置に枝を付けておく。 ○ 室内スベリ台, はしごも危険箇所がないか, 事前によく点検, 修理しておく。 ○ 動物になったつもりで遊べるように動物園のVTRを流しておく。 ○ 事前に子どもたちと一緒に動物のお面を作り, それをかぶって遊べるようお面コーナーに置いておく。

1991年11月21日

保 育 指 導 案

保育者 丸山 仁美

幼児の年齢	4 歳	クラス名	ばんだ組	幼児の構成	男児 13名	女児 10名	合計 23名
主 題	のびのびと、自ら遊びを発展させていく子どもをめざして						
主題にもとづく保育活動	ゆうえんちごっこ						
主題にもとづく活動のねらい	ゆうえんちごっこを、友達と一緒に楽しむ中で、友達と関わりを輪を広げていく						
本時の活動	たのしい広場であそぼう						
本時のねらい	友達と一緒に、広場でのびのびと遊びを楽しむ						
本時の指導にあたって：							
<p>動物園への遠足を契機に、友達と動物の絵本を見たり、キリンや、ぞうの絵を黒板や、スケッチブックに書く子が多くなった。その思いを共同で、一つの作品を作る活動にとりいれ、仲間意識の向上と共同でものを作る楽しさを見出させることに努めた。</p> <p>本時は、今まで作ったものを用いて、のびのびと遊びを広げる活動を展開する。</p>							
放送教材との関わり：							
<p>既に遠足時に録画している放送教材、手作りビデオ「動物園」を、子どもとともに視聴することにより、保育活動における動機付け、遊びの糸口、発着想と起点となるように配慮しながら、放送内容そのものが、保育活動全体の中で、生き生きと躍動するためには、テレビ視聴をどのように位置付ければよいかを常に心に留めた。</p> <p>また、テレビの世界を通じて子どもの世界が大きく広がり、遊びの中に、テレビの世界が位置付けられ、子どもの世界と、テレビの世界が、常にフィードバックするような関係をつくりあげることになった。</p>							

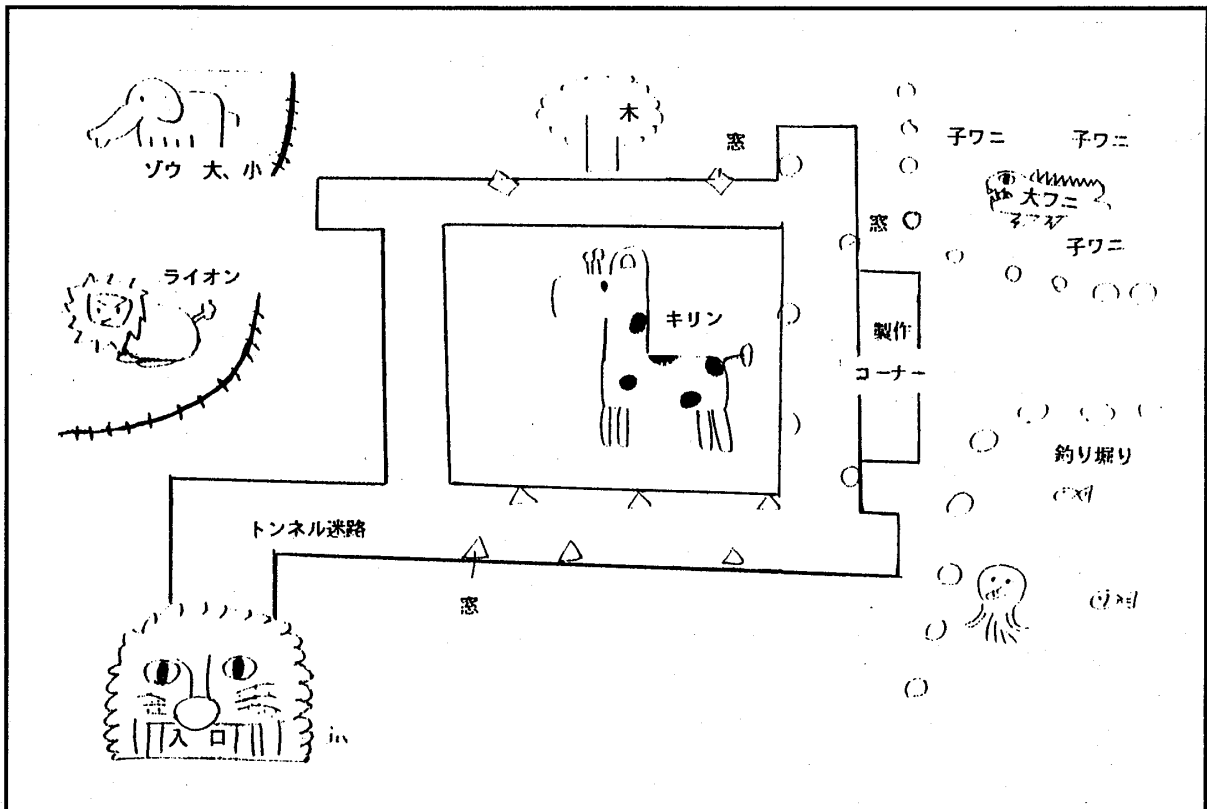
保育活動の流れ

最近接先行保育活動の記録		
平成年月日	保育活動の内容と、特に気付いた事柄	備 考
3. 11. 1	<p>手作りビデオ、「動物園」を視聴したところ、子どもたちは、 「ぞうさんの鼻長かった……」 「サルのボス強そうやった……」 「キリン、先生よりもでかかった……」 と、今一度記憶をめぐらせ、楽しかったことや、おどろいたことなどを口々に出し合った。</p> <p>子どもたちは、その時の感激を忘れかけていたのだが、ビデオを見てたまらなくなったら、どんどん動物を作り始めた。</p> <p>心の中にしまっておいたものが、一変に湧き出るように物凄い勢いで動物作りへと発展した。</p> <p>子どもたちは、自然の中でのびのびと力いっぱい遊びたい。その思いがひしひしと伝わってくるようであった。</p>	<p>手作りビデオ</p> <p>動物大好き</p> <p>忘れかけていた強烈な印象の再現</p> <p>小さな魂の中の大きなエネルギー</p>
3. 11. 21	* * 本時の保育活動 * *	天候への配慮
今後の保育活動への取り組み：		
<p>動物作りや、作ったもので遊ぶことを十分楽しませることにより、動物にたいする関心や、興味を高め、やさしい心、動物を可愛がる心、おもいやる心、大切に育てる心を培いたい。</p>		

* 本時の展開 *

時間配分	展開にあたっての環境構成の留意点	予想される幼児の活動	保育者の援助と配慮
開始0分	<ul style="list-style-type: none"> ○ テレビ視聴は、既に済ましているので直ちに遊びに入るが、このクラスの保育は継続しているので、子どもたちのイメージの中には連続した世界が広がっている。 ○ 遊びの展開ができない場合のため、他のクラスで、手作りビデオ「動物園」を視聴できるように放映している。 ○ 大型動物に乗って遊ぶ子どものために配置の位置には配慮して、子どもが集中的に集まらない設置をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しい広場で遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ トンネル迷路で遊ぶ。 ・ 動物に乗って遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> キリン ゾウ ライオン ワニ ・ 釣り堀りコーナーで遊ぶ。 魚釣り ○ 魚の種類を増やす。 ○ 異年齢の子や、他のクラス子遊びを広げるために、他のクラスに出かけて遊びに参加する。 ○ 製作コーナーで色々な物を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ テレビ視聴をするか、しないかは子どもの自由な意思にまかせて、積極的に、自分の遊びを、自分で選び、のびのびと、遊べるように配慮する。 ○ トンネル迷路への順番待ちには特に保育の配慮を必要とする。 ○ 子どもたちのトラブルは、できるだけ、子どもたちで解決するようにさせるが、保育者の援助が必要な時は、その機会を逃さず的確な指導をする。 ○ 自分で積極的に遊べない子には保育者が適当な友達と一緒に遊べる遊びの場を広げる。 ○ ダイナミックな遊びが多いため遊べない子が出る可能性も考え、その子達のために製作コーナーなどを十分活用して遊べる雰囲気盛り上げる。 ○ 各広場での遊びが十分楽しめているか、保育者間で事前に検討したことが順調に進んでいるか確認する。
終了45分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園内放送を通じて遊びの時間の終了を園内に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ お片付けを始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 明日もみんなで楽しく遊べるように、期待と希望とに満ち溢れるように、今日の楽しかったことなど話しながら、みんなで力を合わせて早く終われるように配慮する。

* 本時の遊びの環境 (配置図) *



環境構成	遊びをひろげる環境構成にたいする留意点
<p>○動物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライオン ・ゾウ ・ワニコーナー ・釣り堀りコーナー <p>○トンネル式迷路</p> <p>○木</p> <p>○製作コーナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色紙各種 ・サインペン ・クリップ ・ガムテープ ・セロテープ ・はさみ ・小さな磁石 ・糸 ・竹竿 ・ホッチキス <p>○マット</p> <p>○踏み台</p>	<p>○登って遊べるように、ライオン、ゾウ、キリンは、丈夫に作っておく。</p> <p>○大きく作った親ゾウに登った時、転落しても、けがをしないようにマットを敷いておく。</p> <p>○ワニコーナーには、大型積木などを利用して凸凹を作り、その上にビニールシートをかぶせて水辺の雰囲気を出す。</p> <p>○釣り堀りコーナーでは、紙で作った魚に大型クリップをつけて、磁石で釣り上げやすいようにしておく。</p> <p>○トンネルの中の子と、外の子が、関わりやすいように迷路の各所のダンボールに穴を開け窓に見立てる。</p> <p>○雰囲気作りの木は、遊びの邪魔にならないような場所に設置する。</p>

1991年11月21日

保育指導案

保育者 勝丸 光子

幼児の年齢	4 歳	クラス名	ぞう 組	幼児の構成	男児 13名	女児 9名	合計 22名
主 題	のびのびと、自ら遊びを発展させていく子どもをめざして						
主題にもとづく保育活動	ゆうえんちごっこ						
主題にもとづく活動のねらい	ゆうえんちごっこを楽しむ中で、ともだちとのかかわりを、より広く、より大きく広げていく						
本時の活動	おばけやしきで、あそぼう						
本時のねらい	遊びに必要なものを工夫して作ったり、考えを出し合ったり、伝え合ったりしながら。友達と一緒に遊びの輪を広げて遊ぶ中で、自分のイメージを友達に伝え、友達のイメージに自分も同調し、想像する楽しさと、喜びをものにする。						
本時の指導にあたって：	<p>みさき公園への遠足で体験した「お化けやしき」と、帰ってから視聴した手作りビデオ「みさき公園」、 「お化けやしき」の子どもに与える影響が大きく、「おばけだぞ……」などと、子ども同士が互いに身体表現を伴って互いに楽しみ合う姿が見られ、友達同士の結びつきと関わり合いが今までより深くなった。</p> <p>「お化け」怖いけど見てみたい、怖いけど興味があり魅力がある、怖いけど親しみを感じる、怖いけど触れてみたい、一緒に遊びたい、「友達」にもなれそうな「お化け」を通じて架空の世界に遊ぶ楽しさ、イメージの中に遊ぶ愉快さを味合わせるため、子どもの夢を一杯膨らませる環境作りを試みた。</p>						
放送教材との関わり：	<p>既に録画している手作りビデオ「みさき公園」、NHK放送教材「つくってあそぼ」、「ゆかいなおばけ」を子どもと共に視聴することにより、保育活動における動機づけ、遊びの糸口、発着想の起点となるように配慮しながら、放送内容より受ける印象が保育活動全体を通じて生き生きと躍動するためには、どのような場面設定、どのような話しかけが大切かを常に心に留めながら子どもと共に遊びの世界に入るよう心掛けた。</p>						

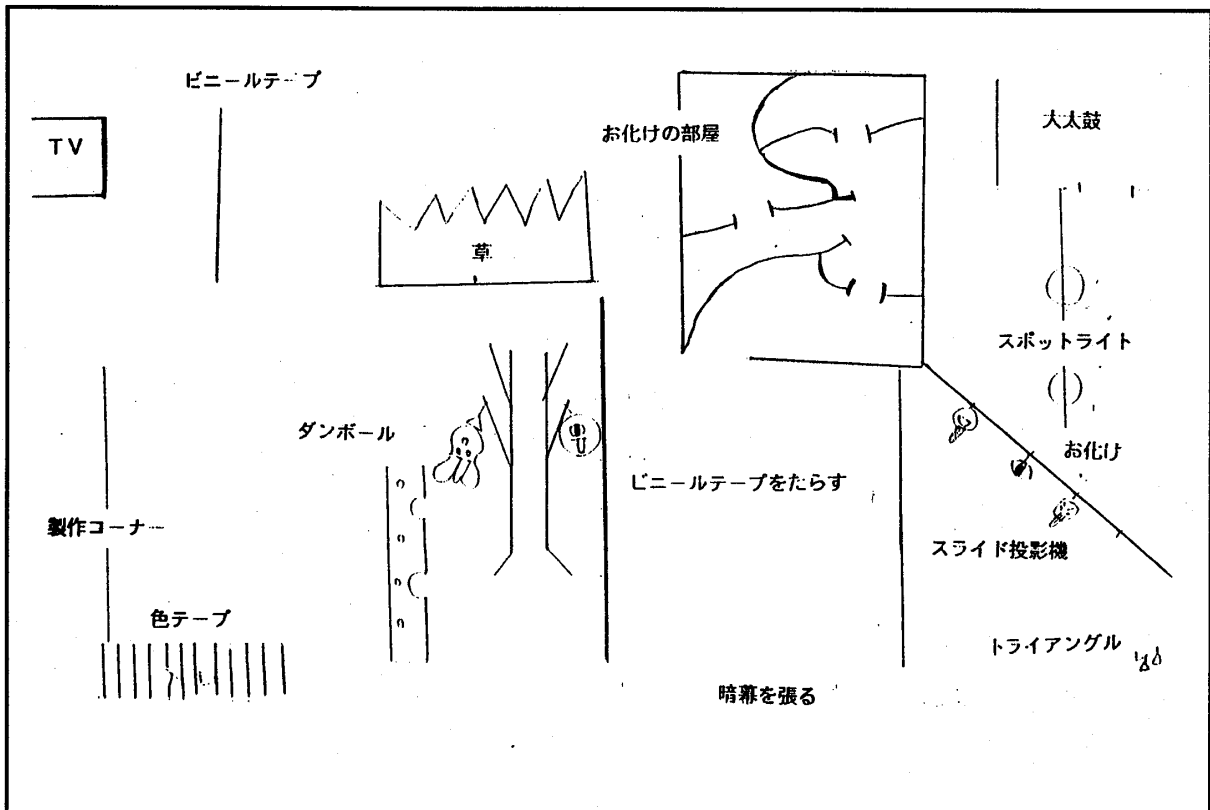
保育活動の流れ

最近接先行保育活動の記録		
平成年月日	保育活動の内容と、特に気付いた事柄	備 考
3. 10. 23	<p>手作りビデオ「みさき公園」を視聴する。</p> <p>手作りビデオでは、効果音が収録されていないので子どもたちには興味を持って見てもらえないのではないかと心配したが、収録時の環境音が、そのまま収録されているので当初の予想は問題にならず、ぞう、さる、キリン、しかなどが画面に現れると口々に動物の名を大きな声で呼んだり、友達に話しかけるなど記憶を一層確かなものにしながらかんじて見た。</p> <p>また、動物園内の、ふれあい広場で直接、やぎに触れたり、鶏をおっかけたりした場面では大きな歓声がおこった。</p> <p>自分たちが写っている「お化けやしき」の場面になると、子どもたちの殆ど全員が口々に、その時に感じたことや、怖かったこと、びっくりしたことなど、様々に話し合った。</p> <p>特に印象が強く残っていて楽しく視聴できた。</p> <p>子どもの中から「お化けごっこ」への遊びの発展が見え始めた。</p>	<p>遠足時収録</p> <p>動物に直接触れる。</p> <p>お化けごっこへ発展の兆し。</p> <p>次回：NHK放送教材「ゆかいなおばけ」遊びの発展に応じて、「わくわく魔法使い」視聴予定</p>
3. 11. 21	* * 本時の保育活動 * *	天候への配慮
今後の保育活動への取り組み：		
NHK放送教材を、遊びの環境の一つとらえ、「お化けごっこ」をより発展させるために、できるだけ多くの機会をとらえて、子どもの心にゆさぶりをかけ、好奇心、冒険心、そして活動力が高まり、自ら遊びを創造できる子どもを培いたい。		

* 本 時 の 展 開 *

時間配分	展開にあたっての環境構成の留意点	予想される幼児の活動	保育者の援助と配慮
開始0分	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビ画面が小さいので、視聴する子どもが多くなったときでも、みんながよく見ることができるようテレビの位置を少し高くしておく。 ○テレビのスイッチを入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビの前に座る。 ○NHK放送教材 <ul style="list-style-type: none"> ・つくってあそぼ「小さな影絵」を視聴する。 ・テーマソングをみんなといっしょに歌う。 ・思ったことや、感じたことを言葉に出して友達の同意を得ようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりが十分見ることができ、子どもたちの相互の位置関係を見守り、必要に応じて話しかけ、できるだけテレビの世界に入りこめるように注意しながら見守る ○子どもたちが喜んだり、驚いたりするのを受けとめ、保育者も表情に出して応え、一緒になって遊びを作りあげる輪の中に入る。
15分	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビのスイッチを切る。 ○興味をもったことに喜んで取り組み試したり、制作したり、イメージを膨らませるように、色々な素材や、用具を適当な場所にそろえる。 ○遊びの様子を見守りながらお化けやしきにふさわしいように室内の照明を適宜変化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワクワクさんを真似たりイメージを膨らませて制作したり、今までに制作した作品を補修したり、仕上げた物を身に付けたりしながら遊びに入る。 ○お化けになって遊ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・既に子どもたちが制作してあるお化け用道具（ナイロン袋、紙袋などで制作した面など）を頭からかぶって遊ぶ。 ・色々な飾りを身につけて遊ぶ。 ・懐中電灯で影絵を作って遊ぶ。 ○色々な広場で遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい広場 ・憩いの広場 ・乗り物ランド ・ふれあい広場で異年齢の子と遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○視聴後の余韻を大切に、子どもたちが自ら遊びを展開できるよう細心の心づかいをしながら見守る。 ○“つくりたい”という欲求と、“つくれる”こととの間の技能的なギャップのため、途中であきらめてしまう子どもが見られたら、子どもの発想を受けとめ、子どもの作りたいもの、また、友達と一緒に考えて作りたいものを作っていくことの楽しみや、喜びや、作り上げた時の満足感が十分味わえるように援助する。 ○各広場での遊びから十分楽しめているか、事前に保育者間で計画したことが順調に運んでいるか、適宜、確認する。
終了45分	<ul style="list-style-type: none"> ○園内放送を通じて遊びの時間の終了を園内に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○おかたづけを始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊びの場を、次回に残しながら、明日もまた楽しく遊ぼうねと互いに声をかけあうよう、希望と、楽しみ、新しい遊びを生み出せるような問いかけをしながら後片付けに誘う。

* 本時の遊びの環境 (配置図) *



環境構成	遊びをひろげる環境構成にたいする留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○暗幕 ○セロハンをはったスポットライト ○大太鼓, トライアングル ○ビニール紐を垂らした仕切り ○草, 木など ○子どもたちの手作りによる色々なお化け ○懐中電灯 ○制作コーナーに用意するもの <ul style="list-style-type: none"> ・ビニール袋 ・ホッチキス ・セロハンテープ ・紙コップ ・ビニールテープ ・糸 ・シャインテープ ・セロハン ・糊 ・はさみ ・マジックインキ ・カッター 	<ul style="list-style-type: none"> ○お化け屋敷の雰囲気をもつ。 ・窓側には暗幕をはり, 部屋全体を薄暗くする。 ・スポットライトにセロハンを張り室内の色効果を上げる。 ・効果音をだすため大太鼓, トライアングルを置く。 ・ダンボール箱で作ったお化けボックスには, 子どもたちが手や, 顔を出したり作ったお化けでおどかしたりできるように, 数カ所に穴をあけておく。 ○保育が始まるとすぐに自分がなりたいお化け, 自分が好きなお化けになれるよう, 今まで作ってきたお化けを, 子どもたちの目の付きやすい所へはったり, 吊り下げたりしてすぐに遊べる状態にしておく。 ○思ったものを作ったり, 今まで作ってきたものを補修できるように, 制作コーナーには遊びに必要な素材や, 道具を十分用意しておく。

1991年11月21日

保 育 指 導 案

保育者 竹中 みか

幼児の年齢	4 歳	クラス名	きりん組	幼児の構成	男児 12名	女児 10名	合計 22名
主 題	のびのびと、自ら遊びを発展させていく子どもをめざして						
主題にもとづく保育活動	ゆうえんちごっこ						
主題にもとづく活動のねらい	ゆうえんちごっこを楽しむ中で、友達との関わりを広げていく。						
本時の活動	たのしい広場であそぼう						
本時のねらい	友達と一緒にお店やさんごっこを楽しむ中で、友達との関わり楽しさを発展させながら、遊びを大きく膨らませることができるようにする。						
本時の指導にあたって：							
<p>これまでのコーナー保育として、ままごと遊びをしてきたが、単に物を作るという段階に留まるのではなく、人との関わりへと発展してきた。ご飯をつくって自分たちで食べるだけでなく、お店で売るという活動に発展し、内容も豊富になり、レストランへと発展した。また、お金をつくり、それをういて売り買いするという広がり、深まりへと遊びが高度になった。</p> <p>遠足で、みさき公園へ行った時の、パーラーでの体験がより一層、深みを増すのではないかと考えられる。これらの体験を生かした活動に発展させたい。</p>							
放送教材との関わり：							
<p>先行活動の中で、屋台を収録した、手作りビデオ「いろんなお店」視聴して以来、子どもの興味は、「お店やさん」を通じて、より広い視野で人々の関係、社会性とも言うようなものを、うすうす感じているように思われる。</p>							

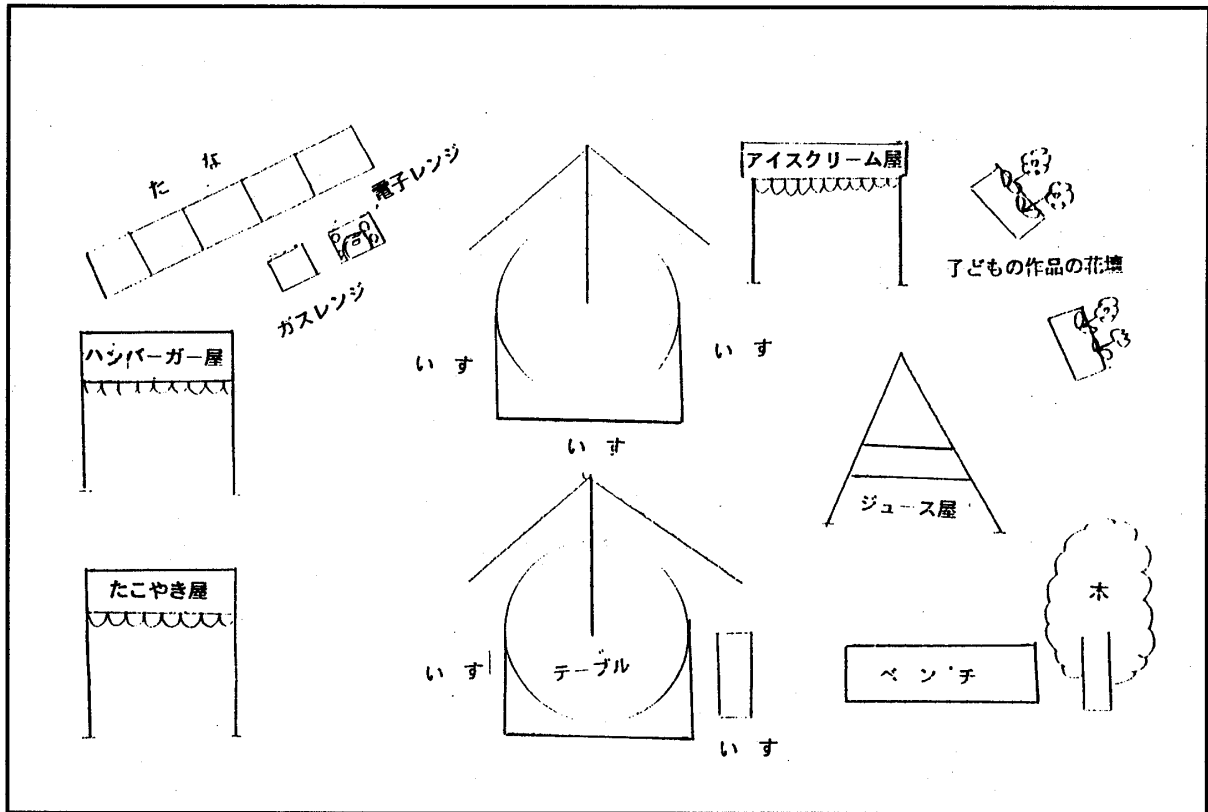
保育活動の流れ

最近接先行保育活動の記録		
平成年月日	保育活動の内容と、特に気付いた事柄	備 考
3. 11. 5	<p>手作りビデオ、「いろんなお店」を視聴したところ、 「たこ焼きやさんや……」、 「お店の上に、たこ焼きってかいちゃう……」、 「アイスクリーム屋さん……」、 「金魚釣り……」、 「りんご飴もある……」</p> <p>子どもたちは、口々に、テレビの世界に展開するお店のようすに興味を持ち、自分たちの活動の糧にし始めた。</p> <p>素材室より自分のイメージに合わせて、各種の素材を持ち出し製作に取りかかり、みんなで屋台作りが始まった。</p>	<p>手作りビデオ</p> <p>お店での体験</p> <p>社会性の発見</p> <p>社会の中での人間活動への興味</p> <p>素材を通じてイメージの膨らみ</p> <p>夢の実現</p>
3. 11. 21	* * 本 時 の 保 育 活 動 * *	天候への配慮
今後の保育活動への取り組み：		
<p>友達と関わるなかで、共同でものを作りあげていく楽しさと、夢の広がり、人の関わりをうすうす感じさせる。</p> <p>互いに仲良くすれば楽しい遊びができることを感じさせる。</p>		

* 本 時 の 展 開 *

時間配分	展開にあたっての環境構成の留意点	予想される幼児の活動	保育者の援助と配慮
開始0分	<ul style="list-style-type: none"> ○お店やさん <ul style="list-style-type: none"> ・発砲スチロール ・ティッシュペーパー ・スポンジ ・新聞紙 ・色紙 ・お皿 ・割り箸 ・つまようじ など素材が十分整っているかの確認を忘れない。 ○製作に用いる用具 <ul style="list-style-type: none"> ・ホッチキス ・せんまい通し ・はさみ ・絵の具 などの用具が十分整っているかの確認を忘れない。 ○身の回りの物 <ul style="list-style-type: none"> ・エプロン ・帽子 など、必要な数だけあるか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○たこ焼き屋さん ○ジュース屋さん ○アイスクリーム屋さん ○ハンバーガー屋さん <ul style="list-style-type: none"> ではと、それぞれのものを作り始める。 ○それぞれのお店で作った品物を持って売り出したり注文を取りに行ったり忙しくなってくる。 ○売れない店ではできた物を持って売りに行く。 ○売れない店では自分たちが食べ始める。 ○異年齢の子どもたちにもおいしい物をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○お店の品物が思うように作られているかを見てまわり、子どもたちの夢をますます大きく膨らませるように、励ます。 ○子どもたちが工夫して作っているものを保育者も一緒になって食べ、「おいしいね、がんばってね。」などの言葉で励ますことを忘れない。 ○保育者が、「今日は、○○ください。」「おいくらですか？」などと、話しかけ、本当のお店やの雰囲気を出すのに積極的に働きかける。 ○「いらっしゅいませ」「ありがとうございました。またどうぞ来てください」などの話し言葉を互いに交わすことができるように働きかける。 ○せんまい通し、ハサミなど、他の子に向けないように指導し、約束する。 ○買い物の順番を守れない子には、それなりの配慮を忘れない。 ○遊びに入れない子どもには、保育者が、一緒になってお店まわりをしたりしながら他の子どもとの関わりの糸口を作って、子どもたちの遊びが、その子も含めて発展するようにしむける。 ○買った物や、食べた物後始末を忘れないように言葉をかけて、それが生活習慣になる配慮を忘れない。 ○事前に保育者間で打ち合わせたように、遊びが発展しているかの確認をする。
終了45分	<ul style="list-style-type: none"> ○園内放送を通じて遊びの時間の終了を園内に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊びの終わりを感じ子どもたちは片付けを始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○明日もみんなで楽しく遊べるように、期待と希望とに満ち溢れるように、今日の楽しかったことなど話しながら、みんなで力を合わせて早く終わるように配慮する。

本時の遊びの環境（配置図）



環境構成	遊びをひろげる環境構成にたいする留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○いこいの広場 <ul style="list-style-type: none"> ・テーブル ・ベンチ ・パラソル ・屋台 ・花 ・木 ○身の回りの物 <ul style="list-style-type: none"> ・帽子 ・エプロン ○お店屋 <ul style="list-style-type: none"> ・ホッチキス ・はさみ ・発泡スチロール スポンジ ・ティッシュペーパー ・新聞紙 ・絵の具 ・色紙 ・せんまい通し ・お皿 ・割り箸 ・ストロー ・つまようじ 	<ul style="list-style-type: none"> ○いこいの広場の雰囲気になるようテーブル、ベンチ、屋台、花、パラソルなどを、適当に配置する。 ○ごっこ遊びのイメージが膨らむように、帽子、エプロンを用意する。 ○お店やさんには、何種類も材料を各お店毎に十分用意しておき、子どもの遊びが十分満たせるように配慮する。 ○部屋を広くゆとりを持って使えるように、それぞれの配置を十分検討する。 ○大型の製作物で子どもたちが、けがをしないように釘などの出たところがないか、事前に確認しておく。

今後の課題

放送教育研究会を实践するに当たり、設備面での問題が先ず最大の課題となった。

本保育所において放送教育研究会が開催されることが決定されたのは、平成2年11月であり、その後、平成3年2月にテレビ・ビデオセットが2台分設置された。

しかし、5学級の内2台分のテレビ・ビデオセットで十分な放送教育実践が可能かどうかについて種々検討を重ねた結果、教育環境の整備と、幼児への教育の機会均等という基本問題を抜きにしては教育そのものが成立しないばかりか、三歳児、四歳児の教育が、教育の原点であるということに鑑み、少なくとも各クラス分の、テレビ・ビデオセットが設置されよう関係当局に要請した。

その結果、平成3年8月に至って個人のビデオ2台分の寄贈を含め遊戯室をも含めた形でビデオ視聴が可能となった。

○ 「放送」にたいする保育園と保育者のとりくみの姿勢

三歳児、四歳児における保育活動を通してなされる教育が、人間成長の過程にとって重要な意義をもち、如何に人格形成、人間形成の基盤となるか、またこの時期に培われる感受性、感性、審美性、創造性、思考の発展性、思考の弾力性などと、物事を遂行する意志の強さ、物事に躊躇しない気力など、所謂、人間の人間としての素晴らしさの殆どが、この時期を起点として養われることへの保育者としての十分な理解のもと、どのような環境設定と、保育指針を、自らが持つか、自己の研鑽と、たゆまない保育実践と、自己反省と、研修の積み重ねを繰り返すことによる牛歩の歩みを限りなくつづける必要があることを再確認する必要がある。

今日情報化という言葉が一般化しているがその真の意味は極めて難解である。しかし、分かる、分からぬに関わらず、既に子供たちは、その情報の渦中にあることを考えるとき、情報が保育活動に及ぼす多大の影響を無視しえず、これを効果的に、有効に利用する方策を考察し、実践利用しなければならない。

中でも、テレビの果たす有効性は、多くの問題点を含みながらも、広く一般性をもって利用されているのが現状であり、保育者として、テレビ視聴にたいする学問的基礎の研鑽に努めねばならない。

○ 指導のポイント

幼児の高さで物を見る、

幼児とともに感動し、驚き、笑い、悲しみ、歌い、踊り、怒り、夢を見る、

幼児の思考の中にはいりこむ、

幼児の手足で考える、

幼児の仲間に入り込む、

放送内容、放送教材を上記の観点にたつて幼児とともに遊びの世界を広める。

○ 「視聴・保育」後の、次時「視聴・保育」へのフィードバック

豊かな人間性を培うこと、

見たり、感じたりしたこと、

のびのびした遊び、

遊びを生み出すこと、

遊びを楽しむこと、

主体的な遊び、

遊びを広めていくこと、
遊びを深めていくこと、
他の子との遊び、
などについて保育者自身の確認と、次時への計画を練る。

○ 客観的角度からの考察

幼児の遊びの推移に関して保育者の援助と配慮、
幼児の創造性の発揮、創意工夫、思考の発展に保育者の援助と配慮、
幼児の変容を期待できるか、
放送視聴の妥当性と指導計画の妥当性、
放送視聴と家庭における放送視聴の関連性、
などについて保育者の客観的考察と、保育者相互の意見交換を詰める。

上記の課題を抱え、今後の保育活動に放送教材を積極的に採用して明日の保育に備える。

幼稚園教育が幼児教育の始点であるような認識のもと、保育にたいする偏った認識を改めることができ、保育の意義・意味・その重要性について町民をはじめ多くの人々の理解が得られ、明るい保育園・楽しい保育園・心身が健やかに育つ保育園・人間成長の出発点としての保育園そして放送教育が持つ重要な意味と・価値について関心と、再認識を得たことは、今回の研究会の貴重な成果であったと評価できる。

これらは全て実際の保育活動に当たった広川町立第一保育園の職員全員の素晴らしい成果である。

謝 辞

今回の幼児放送教育研究会実践指導にあたり、各種の示唆を頂きました和歌山県幼児放送研究会会長・藤川八郎先生、設備その他の保育環境整備に御尽力頂きました広川町関係各位に厚く感謝致します。

渡辺伸子所長、勝丸光子主任、丸山仁美副主任、桜井津紀代保母、梅本晴美保母、竹中みか保母、林やよい技能職員、また途中転勤者の小原加代保母の、各先生方には、実践指導開始時より、日夜を問わず、連日熱心に放送教育を保育活動の一環として組み込むための研究と、保育環境整備のための休日を返上して作業に従事して頂き厚くお礼を申し上げますと共に、この惜しみない努力が、必ず、今後の保育活動の大きな糧となって、広川町のみならず和歌山県の保育活動の良き指針となることを信じて疑いません。

実践指導の際に、公私共に色々とお心遣いをいただき感謝致します。

父母への呼び掛けにたいする謝辞

最後になりましたが、実践指導にあたり、父母への素材の提供依頼に対して、父母各位の熱心な御協力を頂き厚くお礼を申し上げます。